

第78期 中間報告書

2010.4.1 ▶ 2010.9.30

T H E W A Y
O F
M U T U A L
P R O G R E S S

時代とともに、顧客とともに。

「共々の道」という理念をカタチに。

THE WAY OF MUTUAL PROGRESS

油(ユ)・脂(シ)・蠟(ロ)を主原料とする化学技術と、独自のブレンド技術を駆使し、戦後いち早く復興した繊維産業への経糸糊付用油剤を皮切りに、自動車産業・鉄鋼産業への金属加工油剤やビルメンテナンス業界に向けたケミカル製品など、時代を先取りする製品を開発・供給することで、わが国基幹産業の発展に貢献してきました。

創業者の提唱した企業理念「共々の道」は、お客様とユシロの、地域社会とユシロの、そして社員とその家族とユシロの「共々の道」であり、この理念によって、お客様の深い信頼と温かいご愛顧を頂けたものと信じております。

「共々の道」は半世紀の時空を越えて全社員の中に生き続いており、今後も永遠に受け継いでまいります。

企業理念

「共々の道」

社 是

「独自の風格ある製品」
「間口よりも興行きのある研究」
「進歩は常に需要とともに」

第2四半期財務ハイライト(平成23年3月期)

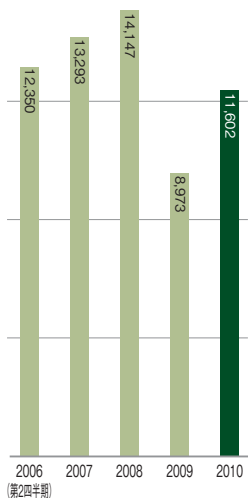
		連結決算	単体決算
売上高	(百万円)	11,602	8,161
営業利益	(百万円)	1,153	462
経常利益	(百万円)	1,423	567
四半期純利益	(百万円)	831	924
1株当たり四半期純利益	(円)	64.92	72.18
純資産	(百万円)	19,001	14,453
総資産	(百万円)	28,368	22,800
自己資本比率	(%)	62.8	63.4

(注)本報告書中の財務諸表等の記載の金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結業績推移

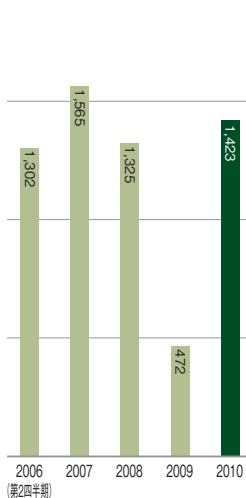
売上高

(単位：百万円)



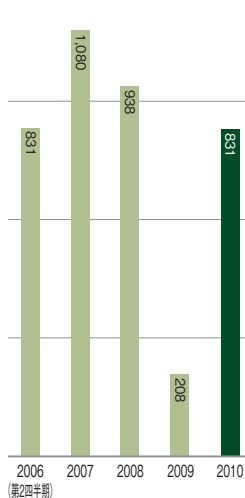
経常利益

(単位：百万円)



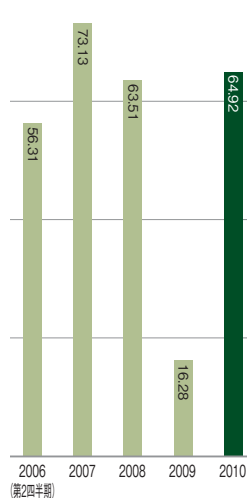
四半期純利益

(単位：百万円)



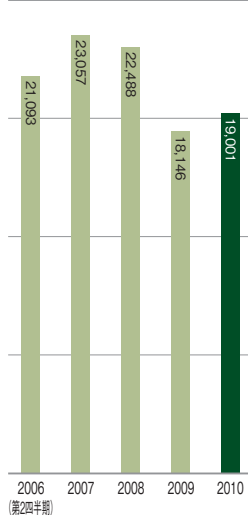
1株当たり四半期純利益

(単位：円)



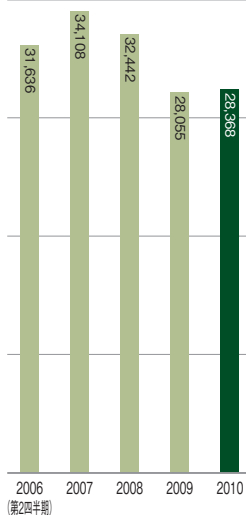
純資産

(単位：百万円)



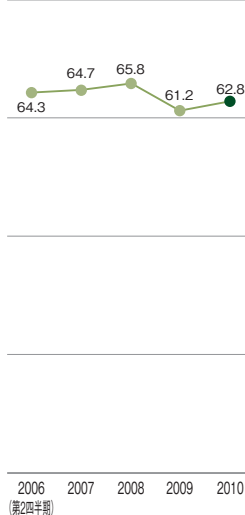
総資産

(単位：百万円)



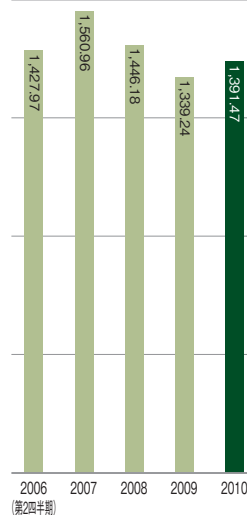
自己資本比率

(単位：%)



1株当たり純資産

(単位：円)



株主の皆様へ



代表取締役社長

長井 禔 明

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。さて、当社第78期第2四半期（中間期）の事業の概況についてご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間における世界の経済状況は、緩やかな回復基調が続いておりますが、新興国では高い成長率を維持しているものの、先進国では回復の足取りが不安定で、依然として不透明な状況にあります。

当社の主要顧客である自動車業界におきましては、エコカー補助金・減税等の政策効果により生産台数は前年同期を上回って推移しました。

このような状況下、売上高は国内及び海外関係会社のいずれも、自動車業界の生産回復が寄与し、前年同期比29.3%増の11,602百万円となりました。

利益面では、販売数量増加、原材料費の削減や原価低減等に努めた結果、営業利益は前年同期比258.4%増の1,153百万円となりました。経常利益では、海外関係会社の業績回復による持分法投資利益が増加し、前年同期比201.5%増の1,423百万円となり、四半期純利益は前年同期比298.8%増の831百万円となりました。

配当金につきましては、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題として認識しております。

中間配当金につきましては、第2四半期までの個別業績と通期個別業績予想等を総合的に勘案し、前回予想から2円増額し、1株につき8円とさせていただきます。

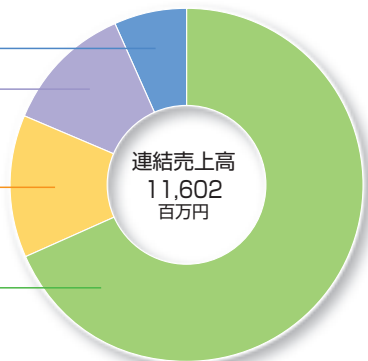
今後の見通しにつきましては、新興国を中心に景気は回復基調にありますが、欧米先進国における景気の先行き懸念や、為替動向、原材料価格の高騰等、当社グループを取り巻く経営環境は、引き続き予断を許さない状況にあります。

このような状況に対し、当社グループは、さらなる合理化とコスト削減及び海外展開の強化により、業績向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年12月

事業別の概況 (平成22年4月1日から平成22年9月30日まで)



日本 68.6%

南北アメリカ 12.8%

中国 12.0%

東南アジア/インド 6.6%

●日本

金属加工油剤の事業環境は、自動車業界におけるエコカー補助金・減税による環境対応車への需要増加に伴い、自動車生産台数は前年同期を大きく上回りました。また、太陽電池用切断油剤の売上も新規顧客との取引開始や新たな生産方法に対応した加工油剤の提案等が奏功し、前年同期を大きく上回りました。

一方、ビルメンテナンス業界は、未だに底打ち感はない

く、低価格化が進行しております。このような状況下、原価低減及び汎用樹脂ワックス、高性能樹脂ワックスのラインナップ強化、高付加価値製品の拡販による利益改善に努めました。

その結果、売上高は7,961百万円となりました。セグメント利益は、原材料費の削減、原価低減及び価格改定の実施等に努めた結果、626百万円となりました。

●南北アメリカ

米国では、日系自動車メーカーは、現地での販売増に伴い生産台数を伸ばし、主要顧客の自動車関連への売上は好調に推移しました。また、家電業界向けの売上も好調に推移しました。

一方、ブラジルにおいては、前半は政府の自動車に対する工業製品税の減税措置が奏功し、自動車関連ユーザーへの売上が好調でした。4月以降は、工業製品税

の減税措置廃止の反動で若干売上が減少しましたが、その後も底堅い国内需要に牽引されて順調に売上は増加しました。

その結果、売上高は1,489百万円となりました。セグメント利益は、継続的な経費削減及び原価低減に努めたこと、また、ブラジルにおける受取利息を計上した結果、235百万円となりました。

●中国

中国経済は政府によるインフラ整備や自動車等個人消費が旺盛で、高い成長率を見せました。主要顧客の日系自動車メーカー及び鉄鋼会社の生産量が大幅に増加し、売上も順調に伸ばしました。

その結果、売上高は1,386百万円となりました。セグメント利益は、原材料費及び経費の削減に努めた結果、250百万円となりました。

●東南アジア/インド

東南アジア各国は、二輪車、自動車の販売促進政策が奏功し、生産台数が増加したことで、各子会社の売上も順調に伸ばしました。また、インドでは、新規顧客の獲得に成功しました。

その結果、売上高は764百万円となりました。セグメント利益は、原材料費及び経費を削減した結果、100百万円となりました。

※セグメント変更

当社グループは、報告セグメントを見直し、従来の「金属加工油剤関連事業」「ビルメンテナンス関連事業」「産業廃棄物処理関連事業」の3区分から、「日本」「南北アメリカ」「中国」「東南アジア/インド」の4区分に変更しました。

連結財務諸表

四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当第2四半期末 平成22年9月30日現在	前期末 平成22年3月31日現在
●資産の部		
流動資産	15,251	13,317
固定資産	13,117	15,367
有形固定資産	7,888	9,601
無形固定資産	167	169
投資その他の資産	5,061	5,596
資産合計	28,368	28,685
●負債の部		
流動負債	6,426	6,374
固定負債	2,940	3,613
負債合計	9,367	9,988
●純資産の部		
株主資本	21,226	20,639
資本金	4,249	4,249
資本剰余金	3,994	3,994
利益剰余金	15,561	14,974
自己株式	△2,579	△2,579
評価・換算差額等	△3,398	△2,938
その他有価証券評価差額金	32	280
為替換算調整勘定	△3,430	△3,218
少数株主持分	1,173	995
純資産合計	19,001	18,697
負債及び純資産合計	28,368	28,685

資産の部

流動資産は、15,251百万円となり、前期末に比べ1,934百万円増加しました。主な要因は、エヌエス・ユシロ㈱の全株式を売却したことにより「現金及び預金」が1,308百万円、売上高増加により「受取手形及び売掛金」が481百万円増加したことによります。

固定資産は、13,117百万円となり、前期末に比べ2,250百万円減少しました。主な要因は、エヌエス・ユシロ㈱の全株式を売却したこと等により、「有形固定資産」が1,712百万円、「投資有価証券」が313百万円減少したことによります。

負債の部

負債は、9,367百万円となり、前期末に比べ620百万円減少しました。主な要因は、「支払手形及び買掛金」が409百万円増加したものの、エヌエス・ユシロ㈱の全株式を売却したことにより「長期借入金」が561百万円、「短期借入金」が394百万円減少したことによります。

純資産の部

純資産は、19,001百万円となり、前期末に比べ304百万円増加しました。主な要因は、「その他有価証券評価差額金」が247百万円、「為替換算調整勘定」が212百万円変動したものの、「利益剰余金」が586百万円増加したことによります。

四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期	前第2四半期
	平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで
売上高	11,602	8,973 ●
売上原価	7,790	6,181
売上総利益	3,812	2,792
販売費及び一般管理費	2,658	2,470
営業利益	1,153	321 ●
営業外収益	341	223
受取利息及び受取配当金	71	79
持分法による投資利益	228	60
その他	42	83
営業外費用	72	73
支払利息	20	35
その他	52	38
経常利益	1,423	472 ●
特別利益	205	50
特別損失	12	9
税金等調整前四半期純利益	1,616	513
法人税等	644	239
少数株主損益調整前四半期純利益	972	—
少数株主利益	140	65
四半期純利益	831	208 ●

売上高

売上高は、主要顧客である自動車業界において、エコカー補助金・減税等の政策効果により生産台数が前年を大きく上回り、前年同期比29.3%増の11,602百万円となりました。

営業利益

営業利益は、販売数量の増加、原材料費の削減や原価低減等に努めた結果、前年同期比258.4%増の1,153百万円となりました。

経常利益

経常利益は、海外関係会社の業績回復による持分法投資利益が増加し、前年同期比201.5%増の1,423百万円となりました。

四半期純利益

四半期純利益は、前年同期比298.8%増の831百万円となりました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期	前第2四半期
	平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	631	1,555 ●
● 投資活動によるキャッシュ・フロー	1,066	△137
財務活動によるキャッシュ・フロー	△235	△293 ●
現金及び現金同等物に係る換算差額	△153	287
現金及び現金同等物の増減額	1,308	1,412
現金及び現金同等物の期首残高	5,892	4,288
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,201	5,700

営業活動による キャッシュ・フロー

営業活動により631百万円の収入超過となりました。これは主に、売上債権の増加767百万円、法人税等の支払370百万円、持分法投資利益228百万円、たな卸資産の増加191百万円等の支出がありましたが、税金等調整前四半期純利益1,616百万円、仕入債務の増加419百万円、減価償却費252百万円等の収入によるものであります。

● 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動により1,066百万円の収入超過となりました。これは主に、有形固定資産の取得213百万円等の支出がありましたが、子会社株式の売却924百万円、定期預金の払戻による収入220百万円等の収入によるものであります。

● 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動により235百万円の支出超過となりました。これは主に、長期借入金の返済186百万円、配当金の支払89百万円等の支出によるものであります。

単体財務諸表

四半期貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期末	前 期 末
	平成22年9月30日現在	平成22年3月31日現在
●資産の部		
流動資産	9,818	8,119
固定資産	12,982	13,514
有形固定資産	6,674	6,727
無形固定資産	51	47
投資その他の資産	6,256	6,739
資産合計	22,800	21,633
●負債の部		
流動負債	5,468	4,787
固定負債	2,877	2,980
負債合計	8,346	7,768
●純資産の部		
株主資本	14,429	13,593
資本金	4,249	4,249
資本剰余金	3,994	3,994
利益剰余金	8,764	7,929
自己株式	△2,579	△2,579
評価・換算差額等	24	271
その他有価証券評価差額金	24	271
純資産合計	14,453	13,865
負債及び純資産合計	22,800	21,633

四半期損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期	前第2四半期
	平成22年4月 1 日から 平成22年9月30日まで	平成21年4月 1 日から 平成21年9月30日まで
売上高	8,161	6,126
売上原価	5,701	4,225
売上総利益	2,459	1,900
販売費及び一般管理費	1,996	1,770
営業利益	462	129
営業外収益	161	182
営業外費用	56	53
経常利益	567	258
特別利益	818	39
特別損失	5	8
税引前四半期純利益	1,381	289
法人税、住民税及び事業税	456	92
四半期純利益	924	197

株式情報 (平成22年9月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数 29,180,000株

発行済株式数 15,200,065株

株主数 5,441名
(前期末比160名減)

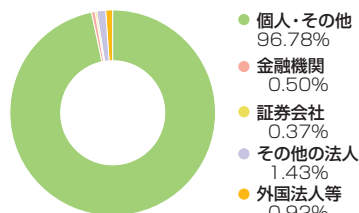
大株主

株主名	持株数(百株)	出資比率(%)
日本生命保険相互会社	10,574	8.25
ユシロ化学工業取引先持株会	6,942	5.41
株式会社三井住友銀行	6,226	4.85
スズキ株式会社	5,490	4.28
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,863	3.79
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,610	2.81
ユシロ化学工業従業員持株会	3,429	2.67
日本ラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,169	2.47
個人株主	3,093	2.41
三井住友海上火災保険株式会社	2,860	2.23

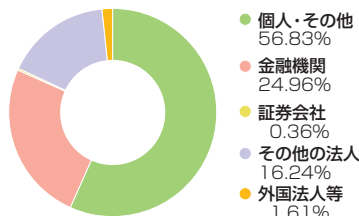
※当社は、自己株式23,874百株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。出資比率は、自己株式(23,874百株)を除いて算出しております。

株式の分布状況

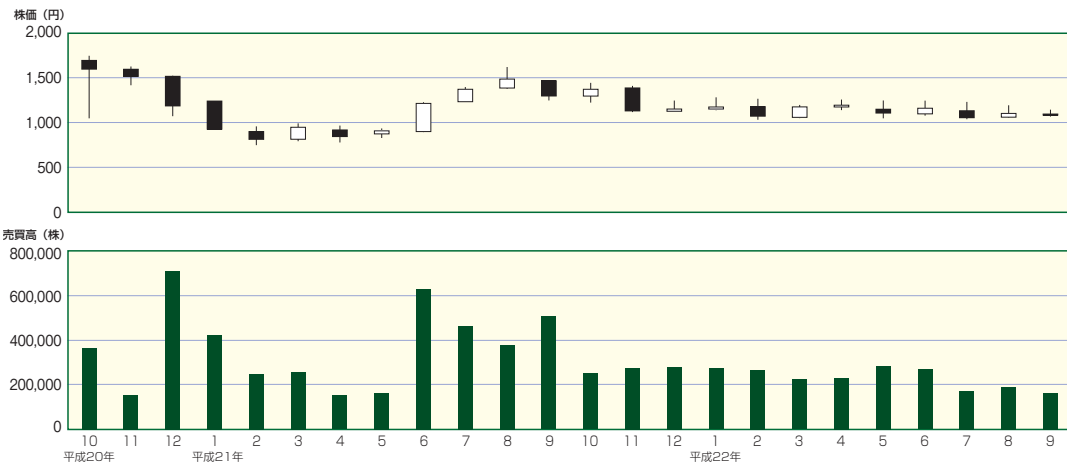
株主数比率



株式数比率



株価チャート



会社情報 (平成22年9月30日現在)

■ 会社概要

社名	ユシロ化学工業株式会社 YUSHIRO CHEMICAL INDUSTRY CO.,LTD.
本社所在地	〒146-8510 東京都大田区千鳥2-34-16 TEL(03) 3750-6761 FAX(03) 3750-1146
ホームページ	http://www.yushiro.co.jp/
設立	1944年(昭和19年)7月24日
資本金	4,249百万円
従業員数	332名(連結719名)
当社グループの 主な製品等	金属加工油剤関連 切削油剤、研削油剤、塑性加工油剤、表面処理剤、 アルミ離型剤、新素材加工油剤、その他関連製品 ビルメンテナンス関連 樹脂ワックス、洗剤、フロアメンテナンス用機器 類、その他関連製品

■ 連結子会社

ユシロ運送株式会社
ユシロマニュファクチャリングアメリカ株式会社[米国]
ユシロドブラジルインダストリアケミカ有限公司[ブラジル]
啓東尤希路化学工業有限公司[中国]
上海尤希路化学工業有限公司[中国]
広州尤希路油剤有限公司[中国]
ユシロ(タイランド)株式会社[タイ]
ユシロジェットケミカルズ株式会社[マレーシア]
ユシロ(インド)株式会社[インド]
PT. ユシロインドネシア [インドネシア]

■ 持分法適用関連会社

汎宇化学工業株式会社[韓国]
株式会社汎宇[韓国]
三宜油化股份有限公司[台湾]

■ 役員

代表取締役社長	長井 禧明
代表取締役常務	広部 雅久
常務取締役	百束 立春
取締役	松野龍一郎
取締役	岸 裕次
取締役	岡本 晴夫
取締役	阪口 善裕
取締役	大胡 栄一
常勤監査役	千葉 保雄
常勤監査役*	恩田 統夫
監査役*	野末 昭孝

(注) ※は社外監査役です。

■ 事業所

テクニカルセンター	神奈川県高座郡寒川町田端 1580
富士工場	静岡県駿東郡小山町湯船字湯船原 1157-2
兵庫工場	兵庫県神崎郡福崎町西治字栞尾 817-1
東京支店	東京都大田区千鳥 2-34-16
名古屋支店	愛知県名古屋市長区緑区鳴海町杜若 100
大阪支店	大阪府枚方市池之宮 3-5-1
北海道営業所	北海道苫小牧市表町 5-4-7 苫小牧第一生命ビルディング3階
東北営業所	宮城県仙台市宮城野区宮城野 1-26-20
北関東営業所	栃木県小山市大字横倉新田 470-5
北陸営業所	石川県金沢市森戸 1-158
浜松営業所	静岡県浜松市中区高丘西 1-3-24
福山営業所	広島県福山市大門町野々浜向山 270-1
広島営業所	広島県広島市南区段原 2-14-11 田中ビル
九州営業所	福岡県福岡市博多区東比恵 3-11-2

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
定時株主総会の基準日	3月31日
期末配当の基準日	3月31日
中間配当の基準日	9月30日
証券コード	5013
単元株式数	100株
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 電話 0120-232-711 (通話料無料) http://www.tr.mufg.jp/daikou/

当社の特別口座の口座管理機関である株式会社だいこう証券ビジネスは、平成23年1月1日をもって、会社分割により三菱UFJ信託銀行株式会社へ証券代行業務を移管いたします。つきましては、特別口座に関する各種お問合せ先等が以下のとおり変更となります。

平成22年12月30日まで 特別口座の口座管理機関 株式会社だいこう証券ビジネス
【郵便物送付先／各種お問合せ先】
〒541-8583 大阪市中央区北浜2丁目4番6号
株式会社だいこう証券ビジネス 証券代行事務センター
電話 0120-351-465 (通話料無料)
〔受付時間 9:00～17:00 (土、日、祝祭日を除く)〕

平成23年1月4日以降 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
【郵便物送付先／各種お問合せ先】
〒541-8583 大阪市中央区北浜2丁目4番6号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話 0120-255-100 (通話料無料)
〔受付時間 9:00～17:00 (土、日、祝祭日、年末年始を除く)〕

公告方法 電子公告とし、当社ホームページ (<http://www.yushiro.co.jp/>) に掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

